
色あせないために

松の慎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色あせないために

【Nコード】

N0200B

【作者名】

松の慎

【あらすじ】

叶わない恋でも追いかける少女。きっと誰もが経験したことのある青春ストーリー。

いくら想っていても届かない。

あなたの目には、あたしは映っていない。

それでも好きだと想うあたしは、ばかですか。

「きょーっ、一緒にかえろー」

「はいはい」

「ほらっ大輔も！」

「うん」

あたしと夾と大輔、3人で幼馴染み。

「あ、そーだ！あたし家庭科でカップケーキ作ったのwはいっ夾」

「いらねえよ」

「そんなこと言わないで食べてよー」

そう言っであたしは無理矢理夾にケーキを渡す。

そしてもう1つを大輔にあげる。

大輔はありがとうって笑って受け取ってくれるのにー。

「じゃあな」

夾が家に入っていく。

そしてあたしも隣の自分の家のドアを開けようとした。

「しのぶ」

「ん？どーしたの大輔」

「あの・・・さ、どうしてしのぶは夾が好きなの？」

だって夾はしのぶのことを好きじゃないって、もう目に見えてるのに。

・・・俺だっただしのぶを幸せにするのに。

「んーそうだなあ。特に理由なんてないかもw気づいたらもうずっと好きになってたの」

「でもっ」

「夾があたしのこと好きじゃなくっても」

どうして夾なんだ。

どうして俺じゃないんだ・・・

「明日はどうなるかわからないっしょ？」

そしてしのぶは「じゃあねw」と言っただけ入って行く。

どうしてそんな笑顔でいられる？

叶わないってわかってるのに、どうしてそんなに強くいられるんだよ、しのぶ。

「・・・俺が弱いだけか？」

ただしのぶが好きだと思う。

けど、幸せになってほしいから別に相手は俺じゃなくても良いんだ。

だけど、そんなんで幸せなのか？

「あつ」

あたしは廊下で外を眺めてる夾の姿を見る。

「夾ー！」

「あーしのぶ」

「なにしてんのー？」

「暇だから外でも眺めてた」

どうせならあたしを見てくれれば良いのに。

「ねー夾」

どうしてあたしじゃだめなの？

どうしてあたしを好きになってくれないの？

「あたし夾のこと好きだよ」

「はいはい」

「じゃなくてっ本気で！」

好きな人には幸せになってほしいと願う。

だけど、好きな人を一番幸せにできるのはあたしって思ってるから。

「・・・俺はお前を好きになることはない」

「どうして？」

「今まで何度も好きだって言われても、しのぶが好きだと思つことはなかった」

あたしが夾を幸せにしたいって思ったから。

「やめとけよ、俺なんか」

ずっとずっと夾だけを見てきた。

「他にも男はたくさんいるだろ」

夾しか考えられないよ。

「それでも・・・あたしは夾が良い」

「しのぶ」

「思われてないってわかってるけど・・・それでも夾が好きだ
って思うあたしはいけないの?！」

だって、こんなにも好き・・・

好きすぎて思いは溢れるばかり。

「・・・ばか野郎」

そうして夾はあたしの前から立ち去る。

知ってるよ、夾はあたしのことを好きになんかならないって。

それでも、側で見てるだけなんて嫌だった。

だから気持ちをぶつけたかった。

あたしはブラウスの裾で涙を拭く。

情けないな、失恋した上に泣いちゃって・・・

だけど、それほど夾のこと好きだって証拠だよ。

好きだよ、夾・・・大好き。

どうして振られても振られても想いは募っていくんだろう。
どうして諦められないんだろう。

それでも、あたしは夾を追いかけていた自分が好きだった。
もうそれもいけないことなのかな・・・

「夾、しのぶのこと完璧に振ったんだって？」
「聞いたのか」

泣いてるしのぶに声をかけたら、無理に明るく振る舞いながら「振られちゃったw」って言った。
別に無理することなんかないのに。

だけど、それは俺では癒せないんだ。

「なんでしのぶじゃだめなんだ？」

「お前こそしのぶが好きなんだろ。良いのかよ、そんなこと言って
「・・・だってしのぶには笑顔でいてもらいたいから」

俺じゃできないんだ。

しのぶは夾といるとき、一番楽しそうにするんだ。

そんなの・・・嫌ってほどわかる。

「俺にはお前が理解できねえっ・・・普通好きだったら自分のもの

にしたいって思わねえの?!」

「しのぶが幸せであるためには俺じゃ無理だから」

「んなのわかんねえじゃんっ」

「わかるよ」

俺は好きな人のためなら自分を犠牲にできる。

そうなってしまったのは、しのぶが無理だとわかってるのに夾を追いつけるから。

「・・・俺はしのぶを好きにはならない」

「夾・・・」

「だけど、あいつは大事な幼馴染だからあいつになんかあったら助ける。ただそれだけだ」

叶わない恋をして、お互い傷つきあって、そして大人になってゆく。俺たちにはそれしかできない。

それしか、ない。

きつと今、俺たちは同じことを思い出す。

『しのぶちゃん、どうしたの?』

『・・・大ちゃんも夾ちゃんもいつかしのぶのどこから離れてっちゃうのかなって思ってた』

『ばーかっ』

『俺らが離れていくわけないよ』

『ほんとに・・・?』

『俺らいつだって一緒だっただろ!それは変わんねえよっ』

『そうそう』

『じゃあ・・・じゃあずっと3人一緒だねw』

幼い頃交わした約束。
まだ手にとるように覚えてる。

あの頃の自分たちが、色あせることのないようにつとめずっと願っていた。

「しのぶ、帰んの？」

「・・・」

「シカトすんなよ」

そう言つて夾はフツと笑う。

「3人いつだつて一緒だつて言つたろ」

「・・・覚えてたの」

「たりめーだろ。なあ大輔」

「もちろん」

あたしの想いが叶うことはないけれど
振り向いてもらうことなんてありえないけど
すぐに夾を諦めるってことも無理だけど・・・

だけどせめて、あの頃交わした約束をいつまでも守っていききたい。

「じゃあ3人でマツク行こ 今日は大輔のおごりねっw」

「はっ俺?!」

「そりゃ名案だな」

「まじかよー!!!」

一番輝いて見えたあの頃のあたしたちが

いつまでもずっと続きますようにと願って

今日も3人で一緒に進む。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0200b/>

色あせないために

2010年12月13日20時03分発行